

第1巻

第1編 野辺地の自然

第1章 序 説

第1節 自然と自然環境

第2節 野辺地の地点性

第2章 野辺地の地形と地質

第1節 概説

第2節 西部山地

第3節 西部洪積台地

第4節 東部地域(野辺地砂丘と野辺地層)

第5節 海岸段丘面の開析地形

第6節 野辺地川の沖積低地

第7節 追記

1 野辺地金山

2 採石場

3 アリト石

4 まんじゅう石

5 馬門温泉

6 立五一のガラス工場

7 上水道の水源

第3章 野辺地の気候的環境

第1節 はじめに

第2節 春の大風

第3節 百度霜

第4節 野辺地のヤマセ

1 ヤマセの季節

2 ヤマセの構造

3 ヤマセと冷害

第5節 野辺地の冬

1 冬の大火事

2 野辺地の雪

第2編 考古

第1章 遺跡の調査と分布

- 第1節 角鹿コレクション
- 第2節 野辺地町の発掘調査
- 第3節 野辺地の地形と遺跡分布

第2章 先土器時代(旧石器時代)

第3章 縄文時代

- 第1節 草創期
- 第2節 早期
- 第3節 前期
- 第4節 中期
- 第5節 後期
- 第6節 晩期

第4章 弥生時代

第5章 古代・中世・近世の遺跡

- 第1節 古代の遺跡
- 第2節 奈良・平安時代
- 第3節 鎌倉時代から安土桃山時代の遺跡

第3編 古代・中世

第1章 国の奥

- 第1節 蝦夷の住む地
 - 1 道奥から陸奥へ
 - 2 日本海の潮
 - 3 陸路を北進する政府軍
- 第2節 坂上田村麻呂と文室綿麻呂
 - 1 坂上田村麻呂
 - 2 文室綿麻呂
 - 3 北奥の金・鷹・馬

第2章 都母村

第1節 都母村夷伊加古

第2節 壺の石文

第3章 安倍氏

第1節 安倍瀬良の叛

1 安倍瀬良衣川に進む

2 奥地の俘囚安倍富忠

第4章 平泉藤原氏の光彩と没落

第1節 清原氏の内訌

第2節 平泉の繁栄

第3節 平泉落日

第4節 平泉余燼

第5章 野辺地湊繁栄に向かう

第1節 海・陸の要地

第2節 野辺地町なみの形成

第3節 集験の霞に出る野辺地

第4節 有戸通の村々

第5節 馬門通の村々

1 馬門村

2 馬門温泉と薬師堂

第6章 武家中心政治開く

第1節 建武の新政と動乱の余波

第2節 七戸内野辺地を伊達五郎宗政に賜う

第3節 南北朝の合一

第7章 蛎崎蔵人の乱

第8章 糠部

第1節 糠部郡

第2節 (戸)へ

第9章 九戸政実叛す

- 第1節 南部家の後嗣をめぐって
- 第2節 南部家相続多難と九戸の乱

第10章 南部信直朱印状を受く

- 第1節 信直三戸南部家を継ぐ
- 第2節 南部信直「南部内七郡所領安堵」の朱印状を受く
- 第3節 南部系図について

第11章 野辺地での造船

- 第1節 参陣の令
- 第2節 名護屋から八戸直栄への書状

第12章 南部氏とその支流

- 第1節 南部三郎光行
 - 1 糠部拝領説
 - 2 その入部説
- 第2節 七戸氏、野辺地氏
 - 1 七戸氏
 - 2 七戸氏の所領
 - 3 野辺地氏

第13章 野辺地城と城代諸士

- 第1節 野辺地城
 - 1 その名称と結構
 - 2 位置と沿革
 - 3 『新撰陸奥国誌』にでる野辺地城
- 第2節 この頃の武士・農民の生活の一端
- 第3節 津軽藩境としての重要性
- 第4節 野辺地城代諸士

第4編 近世

第1章 南部藩の地方行政と野辺地

- 第1節 通制
 - 1 郡・通・村政
 - 2 南部領

第2節 野辺地代官所

- 1 代官所の場所と施設
- 2 職制
 - (1) 代官
 - (2) 下役
 - (3) 野辺地代官所の諸役
 - (4) 野辺地通御給人・与力・役医
 - (5) 同心
 - (6) 野辺地代官所の年中行事

第3節 藩政時代の野辺地町

- 1 野辺地
- 2 馬門
- 3 有戸
- 4 町役
- 5 五人組
- 6 諸職

第4節 馬門番所・浜番所

- 1 南部領内の番所
- 2 遠見場所・浜番所
- 3 馬門番所

第5節 有戸野の牧

- 1 有戸野区域
- 2 牧場の管理
 - (1) 野守
 - (2) 野馬扱いの職制と管理

第6節 藩境

- 1 仙台・秋田の藩境
- 2 南部・津軽の藩境
- 3 藩境論争
 - (1) 江戸において
 - (2) 境山の見分
 - (3) 裁定

第2章 検地

第1節 検地制度

第2節 野辺地通の検地

- 1 延享五年の検地
- 2 農民の特高
 - (1) 有戸村
 - (2) 馬門村
- 3 野辺地通御給人の給所地

第3章 海 運

第1節 海運の発達

- 1 東廻り航路
- 2 西廻り航路

第2節 野辺地湊

- 1 江戸時代初期の野辺地湊
- 2 野辺地湊の繁栄
- 3 船道御高札
- 4 久星客船帳
- 5 西光寺の海運資料

第3節 廻船問屋の営業

第4節 御用銅

- 1 御用銅の大坂廻送令
- 2 御用銅の陸上輸送
- 3 御用銅の海上輸送
- 4 航海日数

第5節 大豆の大坂廻送

- 1 駄送
- 2 集荷
- 3 船積み

第6節 魚粕の大坂廻送

- 1 商品としての魚粕
- 2 魚粕御用
- 3 御用達商人の魚粕取扱い

第7節 長崎俵物

- 1 俵物支配問屋
- 2 野辺地の俵物問屋
- 3 屋敷引当証文

第8節 海上交易

1 江差との交易

2 移入品

3 移出品

第9節 海難

1 享和3年 庄内浜の遭難

2 天保4年 津軽領小泊沖の遭難

3 天保15年 庄内湯野浜沖の遭難

第4章 商業

第1節 商業の発展

1 初期商業の展開

2 商業圏

(1) 上方と南部領内問屋との関係

(2) 下北・松前との関係

(3) 近隣・奥通との関係

(4) 津軽との交易

3 五十集商売

4 商品

5 商家の収益

6 上納金

第2節 南部藩における野辺地の商家の財力

1 御国中分限番付

2 幕末の御用金割り当て額

第5章 酒造業

第1節 南部領内の酒造業

第2節 野辺地の酒造業者

第3節 野坂家の酒造記録

第4節 酒の値段

第6章 林業

第1節 南部藩の林政

1 山林の種類

2 御山奉行の配置

3 野辺地代官所の御山奉行

4 野辺地代官所御山奉行の日記

- 第2節 桧山運上
 - 1 前期桧山運上
 - 2 後期桧山運上
 - 3 杣取り
 - 4 材木の海上輸送
- 第3節 柏木皮
- 第4節 植 林

第7章 陸上交通

- 第1節 陸上交通の発達
 - 1 奥州街道
 - 2 田名部道
 - 3 脇道
- 第2節 道のりと駄賃
- 第3節 中野から野辺地に至る道
 - 1 東まわりの道
 - 2 西まわりの道
- 第4節 道路修理と橋の架け替え
- 第5節 旅 宿
- 第6節 巡見使の通行
- 第7節 旅行記録
 - 1 伝馬証文
 - 2 駄賃帳
 - 3 問屋手代の出張
 - (1) 野辺地より能代まで往復
 - (2) 野辺地より松前まで往復
 - 4 問屋主人の旅行

第8章 蝦夷地派兵と領内海辺警備

- 第1節 蝦夷地派兵
- 第2節 蝦夷地派兵と野辺地
 - 1 公儀役人の通行
 - 2 南部藩士の通行
 - 3 御用金の運搬
- 第3節 藩主の巡視と台場設置
 - 1 南部利敬の巡視

- 2 南部利剛の巡視
- 3 台場の設置
- 第4節 最上徳内

第2巻

第1編 近代

- 第1章 明治前期の野辺地
 - 第1節 野辺地の明治維新
 - 1 戊辰戦争と奥羽越列藩同盟
 - 2 戦場の最先端基地化する野辺地
 - 3 加賀丸の野辺地砲撃
 - 4 馬門口戦争
 - 第2節 黒羽藩支配から斗南藩へ
 - 1 変転する支配
 - 2 北奥県から三戸県へ
 - 3 会津藩士移住
 - 4 斗南藩治
 - 第3節 青森県の成立
 - 1 廃藩置県
 - 2 青森県の成立
 - 第4節 明治初期の政治行政
 - 1 明治初期の行政
 - 2 廃仏毀釈
 - 3 否定される慣習と太陽暦
 - 4 地租改正と野辺地村
 - (1) 地租改正事業の実施過程
 - (2) 第七大区における展開
 - (3) 野辺地村の地租改正
 - (4) 地租改正と野辺地の山林
 - 5 天皇巡幸の頃
 - (1) 明治九年の巡幸
 - (2) 明治九年七月十三日
 - (3) 佐々木高行の奥羽視察

(4) 明治十四年の巡幸

- 1 大区・小区制と戸長制
- 2 戸長制
- 3 上北郡の成立

第6節 地方自治制の施行と野辺地町

- 1 野辺地村会の発足
- 2 上北郡数村聯合会
- 3 府県会
- 4 官選戸長と組合町村
- 5 名望人
- 6 町村制発足
- 7 村会と選挙制度
- 8 町村制以降(明治～昭和前期)の行政担当者
- 9 国会・県会議員選挙
 - (1) 貴族院議員
 - (2) 衆議院議員
 - (3) 県会議員
 - (4) 郡会議員

第7節 野辺地の文明開化

- 1 明治初期の野辺地村概況
- 2 野辺地大火と消防組
- 3 明治二十年代の野辺地村
- 4 明治ことはじめ
- 5 野辺地公園

第2章 明治後期の野辺地

第1節 町制施行以後

- 1 野辺地町の誕生
- 2 上北郡役所移転問題
- 3 野村銀行の周辺
- 4 太平競馬場と競馬
- 5 野辺地商店街事情
- 6 野辺地通信・明治末期の世相
- 7 明治から大正へ

第2節 交通・運輸

- 1 鉄道と陸上交通

- (1) 明治初期の交通事情
- (2) 東北鉄道開通
- (3) 野辺地駅
- (4) 大湊鉄道
- (5) 自動車の出現

2 野辺地港と海運

- (1) 野辺地港
- (2) 野辺地町の海運
- (3) 陸奥湾周航

第3節 官公庁

1 営林業と林業

- (1) 野辺地町営林署
- (2) 皇室林野局野辺地出張所
- (3) 野辺地の林政

2 野辺地警察署

- (1) 初期の警察制度
- (2) 野辺地警察分署
- (3) 歴代分署長・警察署長

3 野辺地郵便局

4 青森種馬所

5 農林省指定青森県模範牧野組合経営雲雀野牧場

6 野辺地区裁判所

第3章 大正期の野辺地

第1節 野辺地町、その光と影

- 1 東部聯合物産品評会
- 2 野辺地電気株式会社
- 3 大正の町制－事務報告より－
- 4 野辺地商工業の進展
- 5 出稼ぎ漁夫
 - (1) 出稼ぎと野辺地港
 - (2) 野辺地よりの出稼ぎ者
- 6 野辺地町にも中等学校を

第2節 明治・大正・昭和の産業

1 産馬組合と畜産

- (1) 産馬維持共会と騒擾事件
- (2) 野辺地産馬組合

- (3) すすむ馬匹改良
- (4) 軍馬優先の馬政
- (5) 野辺地産牛組合
- (6) 野辺地養豚組合
- (7) 野辺地養鶏組合

2 農 業

- (1) 農事改良と模範田
- (2) 野辺地町農会
- (3) 大正二年凶作とその後
- (4) 農村の階層分化
- (5) 荒廃する農村

3 蚕 業

- (1) 養蚕と野辺地蚕糸業組合
- (2) 野辺地製糸所
- (3) 桑園事業
- (4) 大正期の養蚕
- (5) 衰退に向かう養蚕

4 漁 業

- (1) 明治初期の漁業
- (2) 漁業近代化へのあゆみ
- (3) 大正期以降の漁業

第4章 昭和前期の野辺地

- 第1節 普通選挙始まる
- 第2節 不況と冷害の中で
- 第3節 翼賛体制と野辺地町の銃後
- 第4節 太平洋戦争開戦前夜
- 第5節 戦時下の野辺地町
- 第6節 動員と空襲

第2編 文 化

第1章 文学

第1節 漢 詩

- 1 菊池大叔
- 2 中村安之助
- 3 大塚松洲

第2節 俳句

1 近世の俳句

- (1) 松窓乙二と野辺地の俳人
 - 1 島谷子行
 - 2 安田九菰
- (2) 小野素郷と野辺地の俳人
- (3) 古今百奇談
- (4) 弘化五年海中寺句会
- (5) 嘉永四年(1851)八幡宮献額俳句
- (6) 馬門薬師堂献額
 - 1 安政2年の献額
 - 2 文久2年の献額
- (7) 十府浦雑俳見立相撲

2 近代の俳句

- (1) 明治29年海中寺献額
- (2) 脇起俳諧の連歌
- (3) 時雨会
- (4) 笹鳴会
 - 1 笹鳴会と『ホトトギス』
 - 2 笹鳴会と『俳星』
 - 3 笹鳴会と『管菰』
- (5) 河東碧梧桐の野辺地来遊
- (6) 手捏社
- (7) 双川社

第3節 歌 枕

1 青森県の歌枕

- (1) 尾鮫の牧
- (2) 坪の石文
- (3) その他
 - 1 錦木塚
 - 2 奥の海
 - 3 野田の玉川

2 野辺地の歌枕

- (1) 十府
 - 1 十府の浦
 - 2 十府の管薦

(2)狭布の里

第4節 旅行者の記録

奥の荒海(岡田士聞妻)	伊派底廻夜麿(菅江真澄)
北行目録(木村謙次・武石民蔵)	松前紀行(堀田正敦)
蝦夷日記(児山紀成)	東奥沿海日誌(松浦武四郎)
奥の種々(浅石活水)	陸奥紀行(上原和兵衛)
十符の管薦(近藤芳樹)	東巡録(金井之恭)
東北御巡幸記(岸田吟香)	随鑾紀程(川田剛)
扈蹕日乗(児玉源之丞)	突貫紀行(幸田露伴)
易心後語(幸田露伴)	文学地としての野辺地(江渡秋領)

第2章 文化財・史跡

第1節 文化財

- 1 木彫阿弥陀如来立像(県重宝)
- 2 松尾芭蕉句碑(町指定有形文化財)
- 3 石川啄木歌碑
- 4 西光寺のシダレザクラ(県指定天然記念物)
- 5 エドヒガン(町指定天然記念物)
- 6 野辺地八幡宮本殿(県重宝)
- 7 野辺地八幡宮末社金刀比羅本殿(県重宝)
- 8 客船帳(町指定有形文化財)
- 9 行在所
- 10 花鳥号碑と花鳥号銅像
 - (1) 近藤芳樹の弔歌
 - (2) 瘞御馬銘(御馬を瘞むる碑)
 - (3) 花鳥号の銅像

第2節

- 1 一里塚(県史跡)
- 2 藩境塚(県史跡)
- 3 野辺地戦争戦死者の墓所(県史跡)
- 4 防雪原林(鉄道記念物)
 - (1) 鉄道防雪林設置の経緯
 - (2) 原林碑と鉄道記念物指定
- 5 浜町の常夜燈(町指定史跡)

第3章 謡曲

第1節 宝生流

第2節 喜多流

- 1 野辺地喜多会の誕生
- 2 野辺地喜多会の行事